

第22回 対人援助学会準備会

テーマ：「高校における特別支援教育の現状」

—不登校・軽度発達障害・学業不振等の生徒に対する取り組みから—

報告者：二井 弘泰先生（京都府立朱雀高等学校教諭）

今泉 祥子先生（京都府立桃山養護学校教諭）

日時：2008年7月23日（水）19：00～21：00

場所：キャンパスプラザ京都6階

（立命館大学研究室）【JR京都駅ビル駐車場西側】

参加無料／事前申込不要

最近、大学進学や理科系教科の履修に特化した高校が多くなる中で、朱雀高校はいわゆる「普通の高校」を基本的なコンセプトに実践を進めている高校です。どの教科・科目においても、「なぜ学ぶのか?」「この学習を行う意義は何か?」を問いつつ学習を進めていく作風があり、将来の主権者としての基礎・基本の学習を行う中で、自らの進路を切り拓かせるという指導のスタイルが堅持されているそうです。一方で、学力のフロンティア事業の指定を受け、基礎学力充実にむけての取り組みとして、小学校や中学校で履修している基礎的な学習事項が定着していない「躓き」を持った高校生に、再度基礎的な学習（「躓き」の回復学習）をさせ、学習力の回復を目指す取り組みも行っています。長期欠席者特別入学者選抜という新たな入学選抜制度の実施校でもあり、中学校時代に「不登校」傾向であった生徒に高校での学習機会を保障することもしています。高校での特別支援教育も始まっており、包括的な学習権の保障という観点から、特別支援教育の取り組みをおこない、地域支援センターの巡回相談と連携しながら、すべての教員による特別支援教育が行われています。

（1）朱雀高校が取り組んでいる、*不登校特別入試、*特別ではない特別支援教育の内容、*基礎学力が定着していない高校生に対する学力保障の取り組みなど、課題を抱える生徒を複数の教員でサポートするという校内体制や支援の内容紹介

（2）事例紹介：中学校時に不登校で本校に入学してきたアスペルガーの生徒の事例、または、基礎学力定着に向けての総合学習の事例などについてお話して頂きます。

講演者のプロフィール

二井 弘泰先生（京都府立朱雀高等学校教諭）

初任は聾学校で、主に聴能教育にかかわり、聴覚管理や養護・訓練（現在の自立訓練）を担当。盲学校に転任し、日本ライトハウスで研修を受け、「白杖歩行訓練士」（厚生労働省の委託研修）の資格を得て、歩行訓練に携わる。高校転任後は、学年部（担任）として、車椅子利用生徒、不登校傾向のある生徒の生活指導や学習指導（生物の担当）に携わっている。現在、立命館大学応用人間科学研究科にて学業不振生徒の学力回復の方法論について研究中。

今泉 祥子先生（京都府立桃山養護学校教諭）

ももやま地域支援センター巡回相談員として、朱雀高校の特別支援教育についてのサポートやアドヴァイスをしている。立命館大学応用人間科学研究科修了生。

主催：立命館大学人間科学研究所・対人援助学会準備会
問合せ先：立命館大学人間科学研究所（人文社会リサーチオフィス内）
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
TEL:075-465-8358 FAX:075-465-8245
E-mail : ningen@st.ritsumei.ac.jp